

福祉分野との連携

5. 社会福祉団体が運営するコミュニティカフェ「みんなのカフェ銀座」

あさひかわ福祉生活協同組合（旭川市）

■ 地域の概要・現状

旭川市の中心街の東に位置する銀座商店街は、明治末期から市場や飲食店、映画館などが立ち並んで栄えた。メインストリートの仲見世通りは、かつては多くの買い物客で賑わっていたが、近年は消費が郊外に流出し、売上高の減少、空き店舗の増加などの課題を抱えている。

昭和42年に建てられた銀座センタービル（通称：銀ビル）は、結婚式場や最上階のスカイラウンジなど商店街の中心的・象徴的な施設であったが、スカイラウンジは平成25年から空き店舗となり、空きテナントも増えている。



[銀座センタービルの外観]

■ 商店街に「居場所」をつくる

あさひかわ福祉生活協同組合（以下、福祉生協）は、生活サービスや介護、子育て支援事業を行う生活協同組合で、平成29年6月に銀ビル2階に銀座通り内科クリニックを開設した。福祉生協理事長でありクリニック院長の萩原氏は、クリニック開設の計画段階から、地域の人たちの交流の場、お年寄りや子ども達の「居場所」づくりを考えていた。ビルのオーナーとも話し合いを重ね、空き店舗となった1階に、福祉生協の運営による「みんなのカフェ」を開設することとなり、改装工事を経て平成30年1月にオープンした。



[オープニングセレモニーの様子]

■ 憩いの場、サークル活動の場として活用

みんなのカフェは約50席を備え、「みんなのキッチン」と名付けられた厨房で健康をコンセプトにした食事やドリンク類・デザート揃えている。

これまで商店街になかったユニバーサルトイレも完備しており、商店街の買い物客も自由に利用できる。運営する福祉生協は「子どもや子育て世代、高齢者、介護サービス利用者など、多世代が商店街に安心して来られるようになってほしい」と話す。

寄贈された図書コーナーや、囲碁・将棋も用意されており、長い時間滞在する客も多い。店内では常設ギャラリーとして絵画や写真など、個人・サークルの作品展示を行っており、既に数ヶ月先まで予約が埋まっている。

今後は、ヨガや太極拳などの健康講座、市民主体の手話教室や合唱の発表会などのイベントを開催していく予定。

■ 今後の展望

地域に開かれ、地域住民の居場所・活動の場となるために、計画段階から商店街・町内会・大学など地域の関係者による実行委員会を組織し、意見交換を行ってきた。意見の集約や調整に苦慮することもあったが、「地域にとってよい場所になれば」と意見を最大限取り入れている。

今後も商店街をはじめ実行委員会の構成員や地域住民の協力を得ながら、利用しやすい施設、取組の発信拠点となることを目指していく。

取材先 ■あさひかわ福祉生活協同組合（旭川市東光1条1丁目2-12）
TEL 0166-73-6673
HP <http://fukushi-s.com>